

中部の暮らしを支える港湾

港湾

清水港

四日市港

大型の作業船を駆使した港湾工事

四日市港震ヶ浦地区北ふ頭岸壁（W81）

コンテナ等の貨物量が増加している四日市港において、ふ頭内の混雑解消及び効率的な荷役が可能な施設整備を行うとともに、大規模地震が発生した際に、四日市港でも物流機能を維持できるようにするための事業を実施しています。



三河港防波堤

三河港では、船舶が安全に航行・係留できるように防波堤整備事業を実施しています。防波堤には、港内を静穏に保つ機能の他に、台風による高潮や地震による津波に対して、一定の低減効果が期待できる防波堤もあります。



港の物流機能を確保しながらの改良工事

大型化する船舶が係留できる岸壁を整備するため、改良事業を実施しています。工事期間中も、物流への影響を極力抑えるため、隣接する岸壁等の利用に配慮しながら、工事を行っています。



名古屋港飛島ふ頭東側岸壁



清水港興津岸壁

クルーズ船の寄港
（四日市港）

クルーズ船の寄港を活かした地域振興を図るため、クルーズ船に対応した岸壁の改良事業やイベントの支援など、地域と連携した取り組みを行っています。

海岸堤防の改良
（津松阪港）

伊勢湾台風（1959年）を契機に整備された海岸堤防の老朽化が進行しているため、改良事業を実施しています。

海洋環境整備船
「白龍」による流木回収

大雨などにより、河川から海域へ流木等が流入することがあります。船舶の安全な航行や環境保全の観点から、「白龍」を用い、流木等の回収を行っています。



海の環境学習

海をより身近に感じてもらうとともに、海の環境について考えてもらうため、環境学習を開催しています。

平成11年度入省／土木
港湾空港部港湾計画課
課長補佐

舟橋 香

港湾事業・海岸事業には、予算・計画・調査・設計・施工・維持管理・環境・地域振興など、様々な業務があります。また、中部管内には名古屋港や四日市港、清水港などがありますが、各港で特徴が異なることから、港が変われば仕事内容も変わります。

私は、これまでに名古屋港の予算や設計、四日市港の計画や調査、伊勢湾の海域環境などの業務に携わってきました。2～3年ごとに異動があるので、新しい分野の業務に携わることが多く、異動のたびに新鮮な気持ちになります。

現在は、海岸事業の予算や計画に関する仕事に携わっています。以前、海岸事業を担当した際、地域の皆さんと一緒にどのような海岸が良いか考え、整備計画を作成したのですが、その海岸が整備を終えて地域の皆さんに利用されているのを見ると、地域に貢献できたかなと感じます。

平成28年度入省／土木
名古屋港湾事務所 工務課

金澤 宜大

日本に輸出入される貨物の99.6％は港湾を利用しており、中でも名古屋港は、総取扱貨物量が17年連続日本一であり、中部のものづくり産業と私たちの生活を支えています。

私は現在、そんな名古屋港の港湾施設の設計に関する仕事に携わっています。施設の安全性は大前提とし、使いやすさや、いかに予算を抑えた構造にするか等を考えながら取り組んでいます。自分の設計したものが実際にできあがっていくのが楽しみな一方、今後何十年も利用されていくことを考えると、とても責任のある仕事であると感じています。

中部地方整備局の仕事は多岐にわたり、とても大きな仕事に携わることが出来ます。また、様々な業務を通じて自分のスキルを伸ばすことが出来るので、非常にやりがいを感じられる職場です。